

半田市災害廃棄物仮置場 設置・運営訓練を実施

尾張南支部

令和6年3月16日（土）午前10時から半田市リサイクルセンター（半田市乙川末広町50番地）において、半田市と当協会の尾張南支部会員（17社）が参加して第1回の災害廃棄物仮置場設置・運営訓練が実施されました。また、この訓練には知多地域の4市5町の担当者も見学されました。



山本卓美副市長

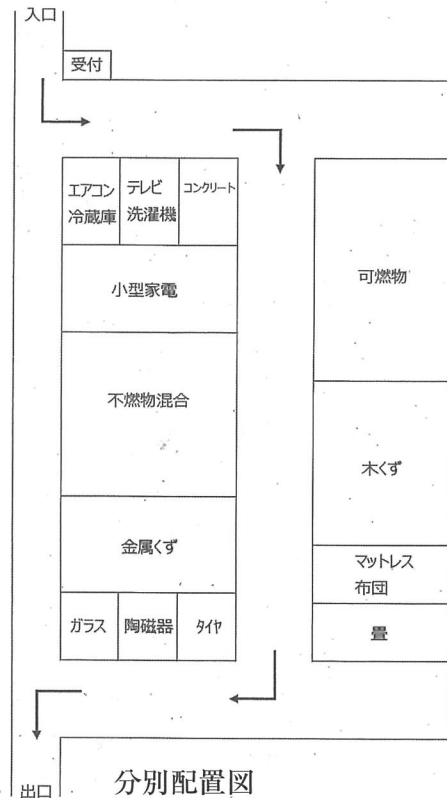
金田英和支部長

冒頭の開会の挨拶で副市長の山本卓美氏から「元旦に発生した能登半島地震にふれ、災害廃棄物の仮置場への市民の搬入で道路の渋滞が大きな問題となることがあるので、一日も早い復旧・復興のためにはこうした訓練が非常に大切だと感じており、愛産協の尾張南支部の皆様の協力をいただいてこうした訓練ができる事に感謝をしています。」と挨拶がありました。

尾張南支部支部長の金田英和氏からは「半田市と当協会の災害廃棄物処理対策に関する特別委員会（以下「特別委員会」という。）が中心となって、災害廃棄物処理仮置場運営マニュアルを令和3年3月に策定してからコロナ禍により延び延びになっていました仮置場設置・運営訓練を実施する運びになりました。本日の訓練を通して、マニュアルのブラッシュアップをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。」と挨拶がありました。

訓練は、前日の15日に仮置場への資機材の搬入と三角コーン、看板等を用いた仮置場のレイアウトの設置を行い、16日の訓練当日に備えました。

訓練は災害廃棄物の受付訓練、災害廃棄物の積み



降ろし訓練、災害廃棄物の搬出訓練が行われました。受付訓練では「災害ごみ搬入申請書」で半田市内で発生した災害ごみか否か、半田市の分別ルールに基づいた持ち込みか否か、搬入の記録のための写真撮影に対する同意の可否について、搬入者の氏名、住所、連絡先、搬入車両の車両番号等の記載について市職員から説明が行われました。



搬入車両の受付

搬入車両の受付では、半田市在住の住民か否かの確認のための免許証の確認、受付から搬入までの待機場所の導線の確保等の課題がわかりました。



積み降ろし訓練

災害廃棄物の積み降ろし訓練では、災害ごみの仮置場開設場所、運用開始時期、開設時間、受入可能な災害廃棄物種類及び仮置場のレイアウト及び注意事項等が記載された「災害廃棄物の搬入のご案内」に基づき、仮置場で受け入れ可能な災害ごみ12品目の分別と仮置場の分別配置図と搬入・搬出動線の確認が行われました。

搬出訓練では、4t及び10tのアームロール車を用いて行われました。



アームロール車

計画では、この仮置場で破碎、選別などの一次処理が行われた後、二次処理施設に搬出されることでした。

今回の訓練ではファストレーン（単一品目優先搬入レーン）は設けられておらず、災害廃棄物が混載されている為、導線上で初めに降ろす廃棄物が荷台の奥にあり、探し出しに手間取り、かなり



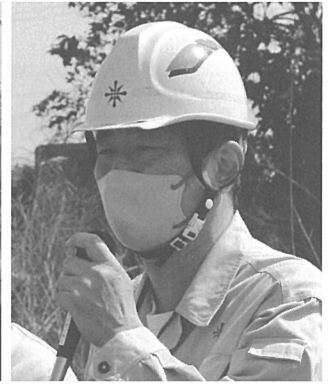
廃棄物を探す担当者

の時間を要し、単品持ち込みの必要性を改めて感じました。

このため、訓練中に一次仮置場のごみの出し方と分別の重要性について、仮置場での積み降ろしの時間の短縮と交通渋滞を回避し、分別搬入の促進のためのファストレーン（単一品目優先搬入レーン）の必要性について説明がありました。



山本浩也委員長



大山仁志部長

訓練後、当協会の特別委員会の山本浩也委員長から講評があり、次の3点について話がありました。

- ① 受付では如何にスピーディーに進め、的確に案内し、搬入渋滞を回避するかがポイントである。
- ② 災害ごみの分別について事前に住民の方に十分に説明し、理解をしていただき、町内等で協力して災害ごみを分別して、混載ではなく単品搬入していただき、仮置場での渋滞を回避するかがポイントであり、住民の方に参加していただく訓練をぜひ実施していただきたい。
- ③ 災害廃棄物処理は初動が命であり、いかにして早く仮置場を開設するかにかかっている。時間がかかれば勝手に仮置場ができ、混合ごみになってしまう。混合ごみを分別するためには手間とお金がかかり、リサイクル率も低下する。分別が出来なければ埋め立て処分をせざるを得ない。

最後に「今回の訓練の経験を活かし、二度、三度と訓練を重ね、愛産協と行政の皆様と顔の見える関係を築き、発災時にスムーズな運営ができるようにしていただきたい。」と挨拶がありました。

半田市市民経済部長の大山仁志氏からは、訓練に対する感想とお礼があり、訓練は終了しました。